

四天王像

この四天王像は、クスノキの材から彫り出されており、7世紀半ばの作で国内最古のものである。『日本書紀』には、聖徳太子（574～622年）が、日本における仏教の普及に反対する敵対勢力との戦いに勝利できるようにと、四天王に助けを求めて祈りを捧げた、と記されている。仏教の国教化に成功した後、聖徳太子は法隆寺の建立を命じた、とされている。それぞれ東西南北4つの方角に立ち、仏の世界を護っている。